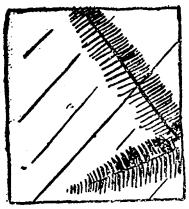


統計にあらわれた台風

軍　司　助

台風の襲来は気象災害の上から見ると、風害、水害を伴いその規模は大きく悲惨なものであるが、一方台風のもたらす雨は、灌漑に、あるいは発電になくてはならないものである。

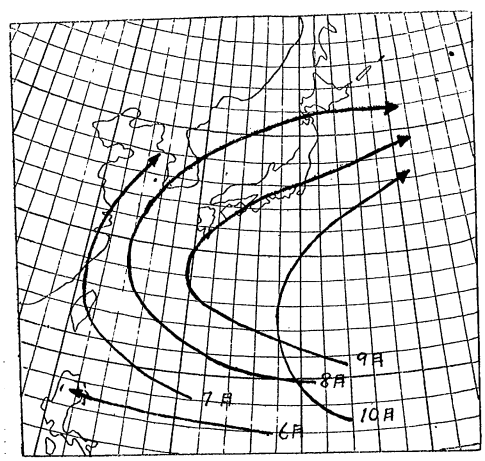
古来我が国では、この台風の来襲を二百十日又は二百二十日の厄日として農家では、特に重要視し、稲の豊凶が予想されている。二百十日とは立春より数えて二百十日目の日で普通は9月1日であるが、2日の年もある。従つて二百十日必ず厄日とは限らない。ただこの頃は台風が最も多く発生し、しかも本邦に接近又は上陸し易い時期で、暴風雨、洪水等気象災害に対し注意を要する時である。今試みに明治40年より昭和29年に至る48年間について、調査して見ると次のとおりである。

9月1日台風来襲	9月10日台風来襲
大正元年	昭和4年
昭和24年	昭和6年
	昭和10年
	昭和12年
	昭和15年
計　2	計　5

以上のように二百十日暴風雨を伴つた台風が来襲した年は、僅かに2回で4%、二百二十日に来襲した年5回で11%に過ぎない。

別図その1

台風の進路（通常型）



台風の発生

台風が発生するところは、大体東経120度から160度、北緯5度から25度までの広い海域であつて、マーシヤルカロリン、マリアナの各群島を含むいわゆる内南洋といつた海域がこれに該当している。しかしこの台風が発生する場所は、月によつてそれぞれ特徴がある。すなわち7月はパラオの北方海上、8月と9月はサイパンの東方海上、10月はトラツク、ポナペの附近海上、11月はパラオの附近海上が台風の主なる発生地である。又これら発生回数を月別に1,928年から1,937年の10ケ年について見ると、次のとおりとなる。

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
数	3	4	2	6	7	11	33	39	49	33	22	7	216

上記のとおり台風の発生は大体7月に始り、11月に終ると見てよい。

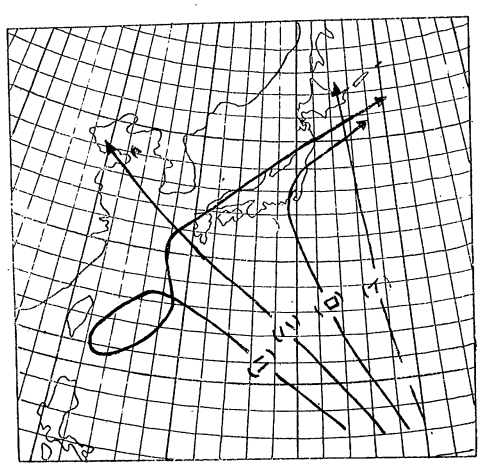
進路と速度

7月より11月に至る台風の進路は、別図(その1)のとおり月によつて進路が異つてくるが、いづれもはじめ北西に進路をとり、拋物線を画いて北東に進むが、その拋物線は7、8、9、10月となるにつれ、次第に東に移つて行くのが通常型の進路である。

しかし異常型の進路となると、別図(その2)のように(イ)、月に関係なく直線的に北上したり、(ハ)拋物線を画か

別図その2

台風の進路（異常型）



ず北西に進行するもの、或いは㈡大きく一めぐりして進路を取る等迷走する場合もある。

台風の中心が移動する速度は南洋で発生してから転向点までは、大体時速20粁位、転向点では速度が著しく遅くなり、殆んど停滞することもある。北東に転向してからは急に速度を増し、日本附近では毎時30粁より40粁が普通で、本県附近を通過する際の速度は、毎時40粁前後である。しかし特異の場合には昨年(9月26日)洞爺丸事件をひき起した台風15号の如きは、日本海通過の際時速110粁位で進行した例もある。

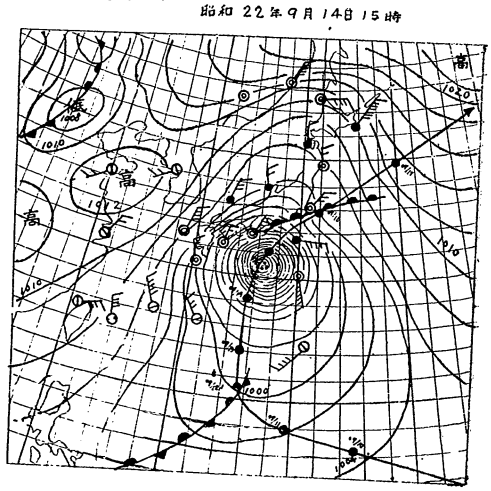
台風の機構

台風は発生してから成長期、最盛期、老衰期と段階を経て、遂に消滅するが、台風として存在する期間は、平均して11日位である。台風のエネルギーは10^{22}エルグ位のもので、馬力にすると1億馬力の200万倍位に相当する。(広島に投下された原子爆弾のエネルギーが10^{20}エルグ)

又台風の中心は普通の低気圧に比し、気圧が猛烈に低くて、中心より500粁乃至1,000粁の範囲は暴風圏内であり、中心に近い程風雨が強い。又その高さは13粁に及ぶものもある。台風の中心附近には無風状態で、雲の切れ目がある場合があり、この区域を台風眼という。又豆台風と称して規模の小さい台風もあり、中心が接近して通過する場合意外の災害をもたらすこともある。

(筆者は水戸測候所技術課長)

天気図　カスリーン台風
昭和22年9月14日15時



!!毎月勤労統計調査6事業所
労働大臣より表彰さる!!

毎月勤労統計調査の指定事業所中、その成績が極めて優秀なものが、このたび労働大臣より表彰された。本県の被表彰者は次のとおりであります。

茨城食糧販売協同組合連合会	(東茨城郡)
茨城県貨物自動車運送株式会社	(〃)
(株)水戸線通運本社	(西茨城郡)
中野組石材工業株式会社	(〃)
中屋製菓株式会社	(真壁郡)
第一醸造株式会社霞ケ浦工場	(稲敷郡)